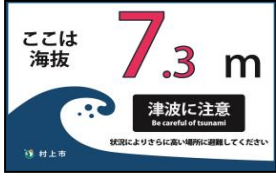


必須ー9	中学校	学習のねらい ～津波からの逃げ方を学ぶ～ ○新潟県の津波浸水想定図から、避難の必要性を知る。 ○逃げたくても逃げられない災害弱者の存在に気づく。	知る 考える 行動する
------	-----	--	-------------------

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 津波からの逃げ方に関心を持たせる ①東日本大震災の被害映像を見せて、東日本大震災では津波によってたくさんの人が亡くなったのはどうしてか問いかけ、話し合わせる。 ②話し合いの中で「逃げ遅れる」ことについて気づかせ、一刻も早く逃げることの重要性を伝える。 ③授業で津波からの逃げ方について学ぶことを伝える。	◆資101：東日本大震災被害状況（映像）  <指導ポイント> ○東日本大震災で津波が発生した時、逃げなかったり、逃げ遅れたりした人がいること。 ○逃げたけれど高い場所ではなかったために犠牲になった人がいること。
【展開】	2. 津波災害からの逃げ方について学ぶ ①新潟県の津波浸水想定図を見て、自分たちの地域（近くの地域）を襲う津波の高さ（予想）などを確認させる。 ※学校が海の近くでない場合 海の近くにいる親戚や友人のこと、旅行やレジャー、遠足などで海の近くに行った時のことを考えさせる。 ②東日本大震災で被災した岩手県釜石市鵜住居（うのすまい）地区の浸水予想図と死者・行方不明者居住地分布図を紹介する。浸水予想図の赤や黄色の部分よりも、その周辺の浸水が想定されていない地域で多くの死者が出ていることに気づかせる。 ③津波から逃げるには「できるだけ早く高い場所に逃げる」ということを伝える。学校や住んでいる近くの高い場所（海拔の高い場所）について話し合わせる。 ※学校が海の近くでない場合 旅行やレジャー、遠足などで海の近くに行った時に、津波に遭遇したことを想像して考えさせる。	◆新潟県津波浸水想定図（新潟県防災局ホームページより入手） http://www.pref.niigata.lg.jp/bosaikikaku/tunami.html  ◆資319：釜石市鵜住居地区津波浸水予測図と死者・行方不明者居住分布図 <指導ポイント> ○津波避難三原則の「想定にとらわれるな」とは、『相手は自然であって、どのような大きさの津波が来るのかはわからない。ハザードマップ等に記された想定津波浸水域や大人の言うことにとらわれず、自ら判断して避難行動をとれ』ということ。 ○ハザードマップを過信してはいけないこと。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	④津波表示板や津波標識に注意しておく、避難場所がわかることを説明する。	◆資315：津波表示板の画像  村上市 ◆資307：津波に関する標識  津波注意 津波避難場所 津波避難ビル
	3. 津波から逃げられない人の存在に気づかせる ①津波から「逃げ遅れる人」とはどういう人かワークシートに記入させて発表させる。 ②高齢者や若い子どもに加えて、病人や体の不自由な人、日本語がわからない外国人など、様々な人たち（災害弱者）が逃げ遅れるおそれがあることに気づかせる。	◆ワークシート10 ■想定される答え ・津波は来ないと思い込んでいる人 ・逃げ足の遅いお年寄りや若い子ども ・荷物を取りに家に戻ろうとする人 等
【まとめ】	4. 津波についてわかったことを確認する ①授業を通じてわかったことや思ったことをワークシートに記入させて発表させる。 ②津波から命を守るには「逃げる」ことが重要であること再度確認し、地域の一員として貢献し得る役割について考えさせる。	◆ワークシート10 ※既に配付済み。下段部分を使用。 